

令和元年度 第4回宇都宮市行政改革大綱策定懇談会 会議記録

■ 日 時 令和元年11月28日(木) 午前9時30分～10時30分

■ 場 所 宇都宮市役所14A会議室(本庁舎14階)

■ 出席者

1 委員

阿久津委員, 岩井委員, 大澤委員, 太田委員, 神林委員, 小栗委員, 木村委員,
児玉委員, 坂本委員, 仙波委員, 中村委員, 丹羽委員, 畠山委員, 古澤委員

(五十音順)

※ 欠席: 入江委員, 臼井委員, 大島委員, 片山委員, 檜原委員, 藤井委員

2 事務局

行政経営部長, 行政経営部次長, 行政改革課長, 行政改革課課長補佐,
行政改革課係長, 行政改革課担当者

■ 会議経過

1 開会

2 会長あいさつ

会長

- ・ ここ数日すっかり寒くなり, 本格的な冬の到来を感じる。6月から始まったこの懇談会も, 夏, 秋と開催し, 早くも4回目の開催となった。
- ・ 委員の皆様からいただいた御意見のおかげで, 実際の市政運営に生かしていただけるような意見書(案)ができたと思う。今回の会議においても積極的に御意見をいただいて, 最後の詰めとしたい。

3 議事

委員

- ・ 若年層が市に期待を持ち, 明るい夢を描くことができるよう, 「魅力あるまちにしていく。」という要素を盛り込んでいただきたい。

事務局

- ・ 「若者世代が夢を持つことができるまち」という要素を意見書の前文などに入れられるか, 正・副会長と御相談させていただく。

委員

- ・ 若者がまちづくりに参画することは、まちへの愛着や誇りの醸成などにもつながっていくと思う。別紙の2ページ目の「(1) 多様な連携による公共的サービス基盤の構築」の中に「多様な主体」という表現があるが、「多様な世代」という言葉を追加し、「若者も高齢者も一緒に地域を作っていく。」という考えを盛り込むとよいのではないか。
- ・ 民間企業では、新たな商品・サービスの開発において、消費者からの反応を見た上で商品・サービスの改善に反映させるというプロセスを踏んでいる。行政においても、新たな行政サービスを検討する際に、積極的な社会実験を行うべきである。
- ・ 以上の意見をこれから意見書に盛り込むことは難しいと思うので、会議記録に残していただきたい。

委員

- ・ 行政が持つデータのオープンデータとしての公民での共有などについては、これまでも議論してきたところであるが、意見書(案)には記載がないので、3ページ目の「公民連携の推進」などに盛り込むことを検討していただきたい。具体的な「数字」に基づき、公民が協力していくことが必要なのではないか。

事務局

- ・ 意見書(案)の2ページ目の「(1) 多様な連携による公共的サービス基盤の構築」において、市からの「行政情報の積極的な提供」について記載しているが、民間との情報の共有などについて追記したい。

委員

- ・ オープンデータというと、市が持っているデータを民間に提供し、新たなアイデアを提案していただくという活用方法をイメージしがちであるが、反対に、民間が持つデータを行政に提供していただき、市がそこから政策課題を見つけていくというパターンも十分考えられると思う。

委員

- ・ 初回の懇談会において、佐藤市長が述べていたように、行政の考え方を「攻め」の姿勢に変えていくということを明確に示すため、意見書の前文などに「より前に進める。」という要素を盛り込んだ方がよいと思う。

会長

- ・ 今回作成した意見書(案)には、総合計画の先導役となるような意見・提言が盛り込まれており、1995年から続けてきた行政改革の取組の中においても転機となり、市民の方から見ても、「行政改革」の概念が変わるような内容となっていると思う。
- ・ 本日いただいた御意見を踏まえた意見書(案)の修正については、会長・副会長・事務局に一任していただいてよろしいか。

各委員

- ・ 異議なし。

会長

- ・ ありがとうございます。

4 その他

会長

- ・ 引き続き、懇談会の感想や行政改革への御意見を自由に述べていただきたい。

委員

- ・ 今後の社会情勢において、女性の活躍は大変重要であると考えているが、意見書（案）の中には「女性」という要素が取り上げられていない。女性の活躍が進んできているとはいえ、やはり、まだ行政の取組が求められる状況であるため、宇都宮市の行政経営などを考えていく中で、女性がいかに輝いていけるか、活躍していけるかという視点からも検討をしていただきたい。

委員

- ・ 日頃から、学生などの若者と触れ合っていると、性別の多様性を認めていくことが社会の大きな流れになっており、「男性」「女性」を行政として線引きしていくことが難しくなっていると感じる。また、LGBTといったセクシャル・マイノリティの議論もある中では、「女性」だけに焦点を当てていくことには難しさがあるかもしれない。

事務局

- ・ 「多様な属性」のような表現で包含して記載したい。

委員

- ・ 意見書（案）について、懇談会で議論した内容をよく反映していただき感謝しているが、人事評価制度に係る検討が欠けていると思う。行政改革の推進と職員の人事評価はセットで行うべきであると考えているので、新たな行政改革大綱に基づく施策の進捗状況を踏まえた人事評価をしていただきたい。

委員

- ・ 先程、「若者の社会参画」について御意見があったが、この懇談会自体に若者があまり参加していない。今後の行政運営を担っていく若手の市役所職員がこうした大きな方向性を決める場に参加していてもよいのではないか。若手職員にとっても、「市を変えていこう。」という当事者意識を持つことにつながると思う。

委員

- ・ 子どもたちに行政への興味を持ってもらうための取組も重要である。

委員

- ・ 行政改革について、市民の方にも当事者意識を持っていただくことは重要であると考えるが、行政文書に慣れていない市民の方にとっては、今回作成した意見書（案）は読みにくいのではないかと。今後は、市民の方に向けて平易な表現のものを併せて用意するなど、工夫をしていくべきであると思う。

副会長

- ・ 今後、アクションプランを作成していくとのことであるが、初回の懇談会において市長が述べていた「内向き」の行政改革から「攻め」の行政改革へという考えを踏まえ、具体的にどのような取組をアクションプランに盛り込んでいくのか。次回の懇談会などにおいて、議論できるのか。

事務局

- ・ アクションプランには次期大綱の特徴となるような取組を盛り込んでいきたい。次回の懇談会においてアクションプランの完成品をお見せできるかは未定であるが、イメージできる資料はお示ししたいと思う。

委員

- ・ 本日、委員の皆様からすばらしい御意見を伺ったが、やはり意見書には「攻め」や「挑戦」といった要素を盛り込み、将来に希望が持てるような姿勢を示すことが必要であると思う。
- ・ 意見書の提出式まで時間的な制約があることから、全ての御意見を意見書に反映させるのは難しいとしても、議事録はしっかりと残していただきたい。
- ・ この懇談会には色々な世代・経歴の方が参加していたため、それぞれの視点から幅広い御意見をいただけたと思う。

会長

- ・ 委員の皆様にご尽力をいただき作成した意見書であるので、明日、市長にお渡しする際には、副会長とともに、懇談会からの思いをしっかりとお伝えしてまいりたい。
- ・ その他、事務局から連絡事項等はあるか。

事務局

（各種連絡）

5 閉会

会長

- ・ これまで委員の皆様から貴重な御意見を踏まえ、明日の意見書の提出式においては、副会長と二人で市長に熱い思いをお伝えしてまいりたいと思う。
- ・ 次回がいよいよ最後の懇談会であり、年度末の開催となり何かとお忙しいかと思うが、委員の皆様には引き続き、よろしくお願ひしたい。
- ・ 本日はありがとうございました。